

# 自主防災組織

東日本大震災時の自主防災活動  
あの日あの時

宮城野区福住町内会

## 広域の連携。相互応援協定が命を繋ぐ

### 地震発生後4日目に救援物資届く

福住町の南側を流れる梅田川を津波が遡上しました。「まさか」の思いは当町内会も例外ではなく、正直のところ水位を見守るしかありませんでした。幸いにも津波が堤防を越えることはありませんでしたが、梅田川決壊時の対策、訓練は、今後の課題です。

福住町町内会は、2003年に作成した自主防災計画に基づき、毎年、独自の防災訓練を実施し、高齢者世帯の家具に転倒防止金具を取付け、また、雨水を溜める天水桶、発電機、プロパンガス、暖房器具、食糧、飲料水等を備蓄するなど、行政に頼らない“自立”した防災活動に取り組んできました。

地震発生日の夜、小雪舞う中を100名近い住民が集会所に集まってきました。停電、断水、ガスの不通。飲料水、食料、発電機など、準備は万端。役員たちは奮い立ち訓練通りに行動しました。食糧と暖があれば3日間は持ちこたえられるという信念は少しも揺るぎませんでした。地震発生から4日後、鉄道、道路等交通網が混乱している中、尾花沢市と小千谷市の町内会役員や市職員がワゴン車等で、米、飲料水、野菜等の支援物資を届けてくれました。備蓄食糧や集会所に避難した住民が持ち寄った食糧少なくなったときでしたので、本当に助かりました。

今回の震災では、防災相互応援協定を締結していた県外の町内会から支援を受け、命をつなぐことができましたが、これも、毎年、協定締結先の町内会に出向き、屋根の雪下ろしの手伝いをするなど、日頃からの交流、顔の見える関係づくりが功を奏したものと考えています。



▲梅田川を遡上する津波



▲県外の町内会から救援物資が届く